キーパーのプロのための最新情報誌

KeePer® TIMES

「キーパータイムズ」 2018年5月号 vol.183

発行所／KeePer技研株式会社 愛知県大府市吉川町4-17
TEL.0562-45-5258 FAX.0562-45-5268

発行人／谷 好通

発行部数／20,000部
（札幌、仙台、新潟、郡山、東京、神奈川、名古屋、大阪、広島、福岡、鹿児島）

http://www.keepercoating.jp/corp/

キーパー技研 検索 0120-517-158

無断コピー・複製を禁ず

0.1ポイントを争う、熾烈な戦い！ 全日本チャンピオン決定戦レポート

第5回 2018年 キーパー技術コンテスト

全国のキーパーコーティング施工者の技術向上、お客様に喜んでいただける高品質なキーパーコーティングの提供を目的として、毎年開催されるキーパー技術コンテスト。2月末から全国各地で50を越える予選が行われ、約3,000人の選手が技術を競いました。去る4月25日（水）、26日（木）の2日間、KeePer技研（株）本社にある中央トレーニングセンターにて、各都道府県のナンバーワンが集結し、日本一のキーパーコーティング施工者が選ばれる全日本チャンピオン決定戦が開催されました。0.1ポイントが勝負を決める、エキサイティングな戦いをレポートします！

4月25日（水） 準決勝 どの選手も上手い！はやい！「プロ」の精神と気合いがひしひしと伝わってくる！

たくさんの応援の方々、採点者、取材陣の視線を感じつつ、集中して施工する選手たち。緊張は当たり前、緊張していても自然に身体が動くまでには相当な訓練が必要だ。

スペシャルゲストでキーパーのWeb CMに出演している吉田沙保里さんを招き、競技風景を見ていただいた。最後に「緊張感ある、真剣な選手一人ひとりを見て、気が引き締まる思い。元気をもらった。明日も頑張ってほしい」とコメントをいただいた。

前日の大雨が嘘のように晴れ渡った準決勝当日。各都道府県チャンピオン45名、タイ・香港チャンピオン1名の合計46名の選手のうち、上位11名が次の日の決勝へと進出する。

競技車両はプリウスのグレー。その複雑なデザインは、技術者の経験と腕が試される。車半分にクリスタルキーパーを施工し、競技得点（170点満点）と時間順位加点（25位0.1点～1位2.5点、0.1点刻みで配点）の合計で競う。競技は3班に分けて行われた。

今年は例年より、応援や見学に訪れた方々が多い。それだけ選手に寄せる期待とプレッシャーは大きい。誰もが緊張している。しかし、お客様に喜んでいただきたいという想いと、真剣集中で施工に向き合う姿勢は同じだ。「プロ」の精神と気合いがひしひしと伝わってくる。

競技がはじまると、前年とは明らかに違いを感じる。選手の動きがものすごくはやいのだ。まさにスポーツ競技そのもので、選手の額には汗がにじみ、呼吸音が耳に入ってくる。会場は最後まで熱気に包まれ、決勝進出の11名が決まった。惜しくも進出ならなかった選手は悔いが残ったかもしれない。しかし、どの選手の表情もとても美しく、輝いていた。

46名のうち、11名が決勝進出へ

北海道チャンピオン／佐藤 智幸 選手

山形県チャンピオン／阿部 隆浩 選手

宮城県チャンピオン／浅野 真広 選手

茨城県チャンピオン／中嶋 彩貴 選手

埼玉県チャンピオン／三ノ輪 雄人 選手

東京Aチャンピオン／近藤 伊知哉 選手

山梨県チャンピオン／武井 征矢 選手

三重県チャンピオン／長谷川 和也 選手

和歌山県チャンピオン／山本 麻由 選手

岡山県チャンピオン／岡﨑 美希子 選手

福岡県チャンピオン／吉川 馨渚 選手

4月26日（木） 決 勝 それぞれの夢、想いを胸に、みんなが本気で戦った！

スタートの号令に、一斉に作業がはじまる。はやい。皆、猛烈にはやい！鬼のようなスピードで、ダイヤモンドキーパーを塗って拭く。1人でプリウス1台分を連続で、塗り、拭き切っていくのは相当ハードなはずだ。もちろん、誰も休もうとしない。第1回から出場しているレジェンドの宮城県・浅野選手、北海道・佐藤選手がスピード面で一歩リード。

女性選手は、11名中3名。昨年のコンテストでいいところまで行って優勝を逃した和歌山県・山本選手は、県チャンピオン戦での得点がトップ、準決勝でも3番目の得点だ。はやいだけでなく、動きに迷いがない。岡山県・岡﨑選手、茨城県・中嶋選手も飛ばしている。そして動きも柔軟で、美しい。

ダイヤモンドキーパーのガラスコーティングからレジンへ移行する際のエアガンの音が最初に聞こえると、数秒も開くことなくあちこちで音が聞こえ、あっという間に全員がエアガンを使っている。15分以上の時間が経っているのに、11名にたった数秒しか差がないことに鳥肌が立った。

レジンの段階になって、ようやく差がつき始めた。仕上げの段階は、減点重視で丁寧にチェックするか、時間加点を狙って早めに見切りをつけるか迷うところだが、すべての選手がこれまでのスピードを忘れるほど慎重に確認している。最初に「終わりました」と手を挙げたのは、昨年のチャンピオンである安藤祐子選手と同じ会社であり、ライバルである佐藤選手。41分4秒。最高新記録だ。2番手は浅野選手。42分33秒と、こちらもはやい。

結果は、浅野選手が念願のチャンピオンに輝いた。「全力で車をキレイにして、その先にあるお客様の笑顔を目指して頑張りました」。その言葉に、浅野選手の努力とキーパーに対する想いを感じた。準優勝の山本選手は、名前が読み上げられた瞬間、涙があふれた。

誰かが「みんなが涙を流せる競技会なんてめったにあるもんじゃない」とおっしゃった。本気が戦った素晴らしいコンテストだった。

入賞者6名のうち、3名が女性選手となった。今、キーパー女子が熱い!!「どんどん女性が活躍してくれるとうれしいです!!」

全日本チャンピオン決定戦の熱い戦いと、選手たちのハイレベルな技術を動画でご覧ください！

Youtubeで キーパー技術コンテスト 2018 検索

★KeePer技研ホームページの「動画ギャラリー」からもご覧いただけます。